

科目名	専門演習Ⅱ Seminar II						
科目担当者	村田 治彦 MURATA Haruhiko						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>裁判例を題材に、判例研究を通じて、法律の解釈論を学び、その能力を習得する。課題となる判例を検討するレポーターを決め、レジュメを作成して、レポーターがそれに基づいて発表・司会進行する。</p> <p>レポーター以外の者は、発表内容の分からないところを質問し、その内容を理解した上で、問題点について意見を出し合っ、どのように考えるべきかを明らかにする。</p> <p>現実社会での法のあり方を知るために、法廷傍聴や法専門家事務所訪問を行う。</p>						
授業の到達目標	<p>民事訴訟手続を題材に、法の見方・考え方の応用能力を身に付ける。</p> <p>日頃の判例研究のみならず、学内・学外の合同ゼミを通じて、民事訴訟と他の法律との連続・不連続性を明確にして、実際に「生きた法」について考える。</p> <p>①レポーターとしてのレジュメ作成（情報収集・整理能力、問題発見能力、問題解決能力）</p> <p>②レポーターとしての発表（プレゼンテーション能力）</p> <p>③レポーターとしての司会進行（コミュニケーション能力）</p> <p>④質問（回数・内容）（コミュニケーション能力、問題発見能力）</p> <p>⑤意見 [回数・内容]（コミュニケーション能力、問題解決能力）</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション	16	法専門家事務所訪問 1			
	2	法廷傍聴 1	17	判例研究 1			
	3	判例研究 1	18	判例研究 2			
	4	判例研究 2	19	判例研究 3			
	5	判例研究 3	20	判例研究 4			
	6	判例研究 4	21	判例研究 5			
	7	判例研究 5	22	研究報告 3			
	8	研究報告 1	23	法専門家事務所訪問 2			
	9	判例研究 1	24	判例研究 1			
	10	判例研究 2	25	判例研究 2			
	11	判例研究 3	26	判例研究 3			
	12	判例研究 4	27	判例研究 4			
	13	判例研究 5	28	判例研究 5			
	14	研究報告 2	29	研究報告 5			
	15	判例研究合同 1	30	判例研究合同 2			
授業外学修 (事前学修)	<p>演習は、講義形式でなく、主体的な学習が中心となる。そこで、レジュメ作成等によって事前学習をやって貰わなければならない（180分）。</p> <p>分からない場合には、分からないまま放置するのではなく、サブゼミとして質疑応答の時間を設けるので、連絡して、質問して準備することが求められる。</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>発表し、質疑応答等によって新たに発見した課題については、次の発表に活かせるように、判例や文献等を調べ、自己学習を重ねて、テーマを深め、卒業論文の作成に繋げるようにする（60分）。</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応		
	レポーターとしてレジュメ作成（情報収集・整理能力）			40%	①		
	レポーターとして発表（プレゼンテーション能力）			30%	②		
	質問、意見			20%	③、④、⑤		
	司会			10%	③		
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						

教科書	特に指定しない
参考文献	川嶋 四郎・笠井 正俊(編)『はじめての民事手続法 [第2版]』(有斐閣・2024)
その他	ノートパソコンを持参して臨むこと!